

武漢の医師李文亮氏の死亡
～習近平体制へのボディブロー～

武漢市で新型肺炎に気づいた（昨年10月下旬？）医師李文亮氏は治療に当たる中自ら感染し2月7日死亡した。

仲間内でのチャットで警鐘を鳴らす同氏を、当局は流言飛語を流布し社会を不安に陥れたなどとして懲戒処分、自白書類に署名させていた。

こうした当局の対応の遅れから今回の大流行をもたらしたのだった。

習近平体制下、都合の悪い情報を徹底的に規制するという傾向を強める中国の一方独裁体制が坤為地の大流行の一因となった。

殉教者となった李文亮医師の行為に胸をゆすぶられた中国人の、今後の中国の在り方への影響が注目される。

筆者 大貫啓行